



2021年2月15日

各 位

会社名 ワタベウェディング株式会社
代表者名 代表取締役社長執行役員 花房 伸晃
(コード番号：4696 東証第一部)
問合せ先 執行役員 グループ管理本部長 鈴木真治
(TEL：075-778-4111)

債務超過解消に向けた計画について

当社グループは、本日公表いたしました「2020年12月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」に記載のとおり、新型コロナウイルス感染症による営業収益の大幅な落ち込みにより営業損失10,983百万円を計上したこと等により、当連結会計年度末(2020年12月期末)時点において863百万円の債務超過となっております。詳細は決算短信添付資料1. 経営成績等の概況をご覧ください。

これを受け、当社では「WATABE Sustainable Plan」を策定し、以下の諸施策の実施により、事業面及び財務面での安定化を図り、当該状況の解消、改善に努めてまいります。

記

1. 資本増強と手元流動性の確保

当連結会計年度末において現金及び預金9,193百万円を保有しており、当面の事業継続するための十分な資金を有しております。以下施策の実施とコスト削減により事業運営・継続に必要な資金の確保を図ります。

(1) 資本政策の検討

・事業収益構造改善と債務超過の早期解消による経営安定化を目的として、様々な資本政策について検討を進めております。

(2) 金融機関から支援継続

・主要取引銀行から、2020年4月には、通常の当座貸越契約の別枠として、新型コロナウイルス対策のための特別融資13,000百万円を受け、現在その残額は維持されております。また加えて2020年11月にはバックアップラインとしての資金確保を目的として、当座貸越契約(極度総額3,000百万円)を締結しております。

・引き続き主要取引銀行との良好な関係を維持し、支援を継続いただくための協議を行って参ります。

(3) 自社保有資産売却による手元流動性の確保

当連結会計年度中に売却により2,315百万円の固定資産売却による収入がありましたが、今後も自社保有資産の売却を進める予定です。

(4) 新規投資の凍結

不要不急の設備投資、新規投資は凍結しております。

2. 事業のダウンサイジング等によるコスト削減

コロナ禍顕在化時の緊急対策として一時的な支出の抑制策を実施し、その後事業構造とコスト構造の見直しを行いました。コロナ収束後でも見直し後の構造を維持することで、収益性向上を企図しております。

(1) 徹底的なコスト削減

・グループ全体でコストの見直しを行い、大幅な削減を行っております。役員報酬の減額をはじめとした賞与等の人件費の抑制、賃借料の減額交渉、外部委託コストの抑制、出張の原則禁止や広告宣伝費の抑制など、全ての費用の見直しと削減対策を実施した結果、販売費及び一般管理費合計（臨時休業等による損失の特別損失振替前）では、前年同一期間（2019年1月から12月）と比べ7,953百万円の減少となりました。

・2021年度以降においても営業収益に見合ったコスト構造となるように、継続的なコスト削減と、状況に応じた追加施策を実施してまいります。

(2) 事業拠点の閉鎖・休眠・譲渡および人員構成の最適化

・海外渡航制限の解除時期や航空路線の正常化の見通しが不透明であることから、リゾート婚礼事業の悪化した経営環境が一定期間続くことを想定し、運営効率化や固定費削減を図るべく、一部のリゾート挙式販売店並びに海外リゾート挙式実施施設および営業拠点の閉鎖・休眠・譲渡を行ない、選択と集中を実施しました。拠点数は2019年12月との比較で30拠点減少しております。また、これらに伴う人員構成の最適化として、国内外の拠点での一時帰休、希望退職を実施いたしました。

・コロナ収束後も、縮小した拠点や人員構成は維持継続することとしており、販売管理費合計での前年度比較では、更なる減額を見込んでおります。

3. ポストコロナを見据えた事業戦略の展開

リゾート挙式では、関連するあらゆるシーンにおいて、引き続きデジタル化の推進に取り組んでおります。オンライン販売の強化、接客ツールのWEB化、デジタルを活用した現地オペレーション機能の効率化など、収益確保と顧客利便性を追求し、ポストコロナに対応したサービス改革を進めております。

ホテル・国内挙式では、各地域性に合わせたコミュニケーション戦略を展開し、引き続き地元利用促進に努めると共に、ポストコロナにおける差別化を図るべく、施設特徴を活かしたブランド戦略を推進しております。

4. 債務超過の解消時期

上記の諸施策の実施を進め、なるべく早期に債務超過を解消するよう努めてまいります。

以上